

地域木質資源を用いた木質製園芸用ハウス

園芸用ハウスの鋼材は年々高騰しており、規模拡大や新規参入におけるハウス導入の障害となっています。一方、間伐材等の地域木質資源の有効活用および木質資源の高付加価値化が望まれています。そこで、岩手県農業研究センターでは、木楽創研株式会社と共同で間伐材等を用いた木質製園芸用ハウスを開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

イチゴの栽培実証により、採光性を改良して実用性を高めた木質製園芸用ハウス（図1）の特徴は次のとおりです。

1. 木骨ハウスの構造

- 1) 構造は柱と梁を8本のボルトで連結した柱梁ユニットを基本とした簡易な構造です。
- 2) ユニット構造であるため独自に設置および解体が可能です。
- 3) 間口は5間まで、軒高は4 mまで、連棟も可能です。高軒高のため、作型にあわせて内張りカーテン等の設備の設置が可能です。

2. 木骨ハウスの性能

- 1) 耐候性ハウス基準である耐風性 50 m/s、耐雪性 50 kg/m²を持っています。
- 2) 採光性は軽量鉄骨ハウスと比較しても同等の値を示します。

3. 木骨ハウスの費用

設置費用は 100 坪単棟タイプで約6～7万円/坪であり（基礎、躯体、被覆資材、施工費を含みますが、仕様および資材の年次価格で費用変動有）、柱梁ユニット資材のみの提供も可能です（同タイプ、約3万円/坪）。



図1 木質製園芸用ハウスの内外観

☆ 活用面での留意点

1. 木骨ハウスの小屋構造は木楽創研(株)が特許を取得しています。
2. 柱梁ユニットは木楽創研(株)が供給します。
3. 製材基準である4 mを超える材を使用するハウス規格では費用削減効果が劣ります。
4. 詳しいことは岩手県農業研究センター技術部南部園芸研究室（陸前高田市、TEL:0192-55-3733）へお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）